

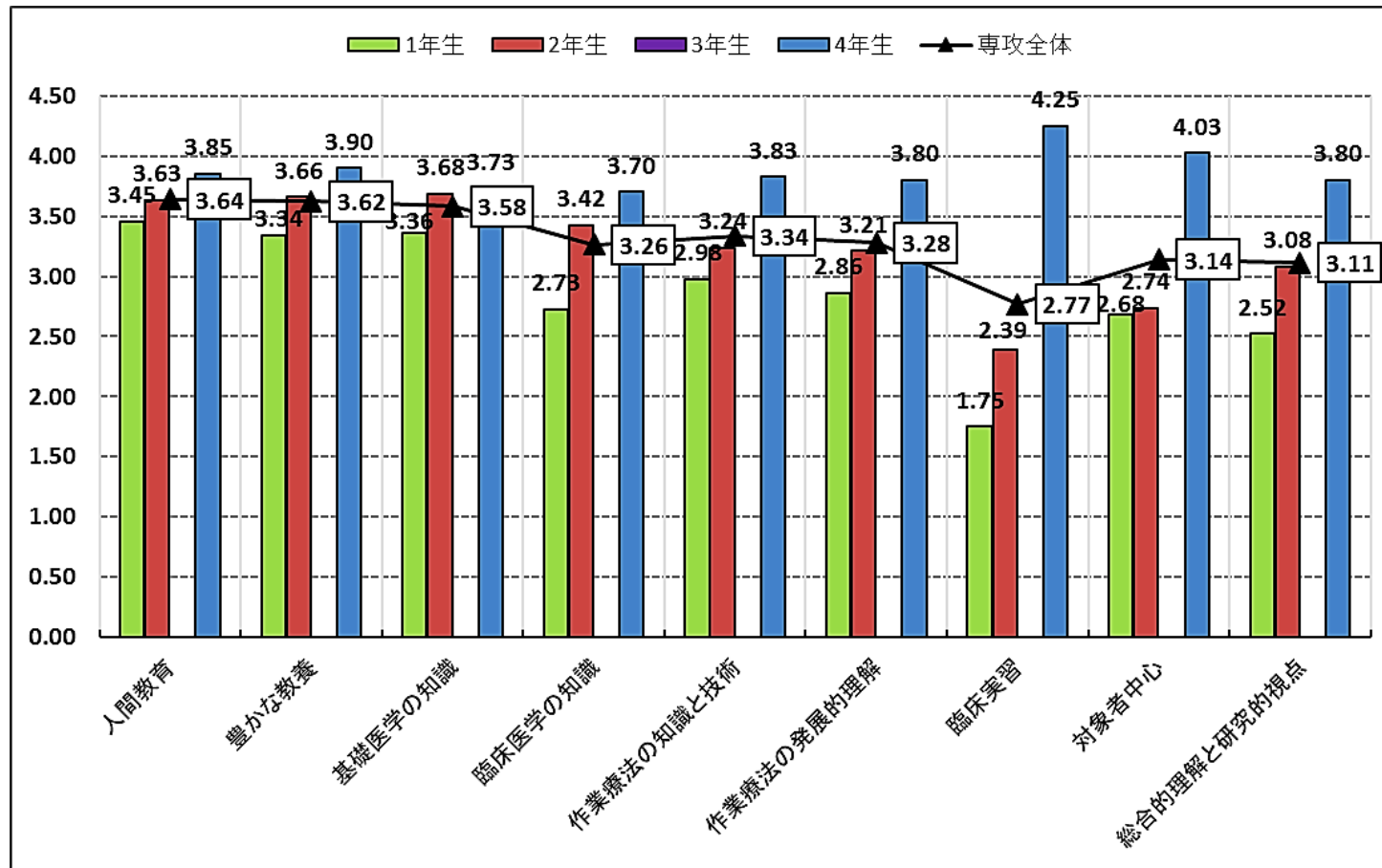
2017年度 教育課程編成・実施の方針に照らした学修への取組の適切性に関する検証

FD委員会

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学びの姿勢ふり返り（学科／研究科専攻の教育課程編成・実施の方針）」のデータを活用した検証です。学科の教育課程編成・実施の方針については、本学ホームページの「教育方針」（下記のURL）をご覧ください。

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻	検証の結果
リハビリテーション学科	<p>作業療法学専攻</p> <ul style="list-style-type: none">分析対象の内訳：1年生44名（100%）、2年生38名（86.3%）、3年生データなし、4年生40名（85.1%）。 注）3年生はデータがなかったため、分析から除外した。「人間教育」、「豊かな教養」、「基礎医学の知識」の3項目および「臨床医学の知識」、「作業療法の知識と技術」、「作業療法の発展的理解」の3項目は類似した得点上昇傾向を示し、学年の進行に伴い少しずつ向上していた。全体の平均点で、基準レベルと考えている3.0を下回ったのは、「臨床実習」のみの項目であるが、1、2年時の調査時期にはまだ臨床実習に出ていないため低得点であるが、4年生では最も上昇している項目であった。これは、積み上げ型教育を考慮したカリキュラムプロマポリシーに基づき、年次進行で各項目の評定が上昇することはカリキュラム構成の意図が反映されており、教育の成果と考えることができる。しかし、4年生では知識と経験の統合の時期でもあり、特に「総合的理解度と研究的視点」のスコアが更に高値を示すように、カリキュラムの内容や積み上げ型（知識と経験の統合）の検討が今後の課題としてあげられた。



理学療法学専攻

- ・分析対象の内訳：1年生 38名（88.4%）、2年生 48名（77.4%）、3年生データなし、4年生 36名（76.6%）。
注）3年生はデータがないため、分析より除外した。
- ・5項目ともに全学年において、同様の緩やかな上昇傾向が学年の進行に伴い認められた。全体の平均値は、基準レベルと考えている3.0をほぼ上回っており、「臨床実習での実践力」のみ僅かに3.0を下回っている。これは、「3」のレベルが「評価結果をもとにした統合と解釈と問題点の列挙」としているため、2年生までの実習において目標に到達できる学生が少なかったものと思われる。また、総合実習を経験している3年生のデータがないため、ポイントが下がっているものと判断した。

・4年生の項目で最も低い「自己研鑽と研究 (3.69)」については、臨床に出て生涯学習の礎となるものであり、学内教育から卒後教育へと連携させる事が今後の課題と考える。

